

指定文化財に関する調書

記入年月日	平成 22 年 2 月 18 日
種 別	考古資料
名 称	前原遺跡旧石器時代出土石器
員 数	89 点(第 1 ブロック 46 点、第 2 ブロック 43 点)
所 在 地	宮代町西原 2 8 9
所有者の住所・氏名	宮代町
管理者の住所・氏名	宮代町教育委員会
経過及び現況	<p>前原遺跡は、昭和 55 年 3 月 12 日～56 年 3 月 24 日まで発掘調査を実施し、旧石器時代、縄文時代早期前半を中心として遺物、遺構が発掘された。</p> <p>本資料は、台地先端部付近のローム層中から 2 か所でまとまって出土したものである。</p> <p>第 1 ブロックでは黒曜石製のナイフ形石器 16 点、稜着石刃 2 点、スクレパー 2 点、コア 1 点を始めとして、この他に剥片、チップが出土している。</p> <p>第 2 ブロックは、10m×12mほどの範囲に石器が出土したもので、ナイフ形石器 3 点、角錐状石器 2 点、グレイバー 1 点、スクレパー 6 点等で、多くの接合資料に恵まれた点、特徴的である。</p> <p>第 1、第 2 ブロックとも時期的には、20,000 年前後のものであるが、石器の特徴等から第 1 ブロックが新しく、第 2 ブロックが古い。このように 2 時期の文化層を持って、石器の集中を持っている点特徴的である。</p> <p>また、出土した黒曜石の産地を見ると、第 1 ブロックが長野県和田峠、第 2 ブロックが栃木県高原山と異なり、遺跡に持ち込まれた黒曜石の産地が異なっている点も特徴的である。大宮台地における旧石器時代の石材の搬入ルートを考える上で、西と北の交差点ともなっていたことが分かる。</p> <p>なお、これらの資料は、発掘当時、大宮台地の旧石器時代の調査として数少ない例であり、また、埼玉地区では初めての調査で、大宮台地における旧石器時代の研究史の上で、まとまった資料として注目された遺跡であ</p>

	る。
指定理由	本資料は、大宮台地の旧石器時代の研究史上、また、宮代町の旧石器時代 20,000 年前後の資料として、2 時期の文化層を持ち、石器の石材の産地もそれぞれ異なるという特徴をもっており、当時の様相を知る上で欠くことのできない貴重な資料である。
備 考	